

第3章

【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

タブレットを使用し、地図を用いて道案内し、必要な情報を書き込むことを通して、子供自身が主体的に学んでいく取組

～玉名市立小天小学校（2年国語科）～

子供たちが「考えを伝えたい」「相手の考えを聞きたい」という思いを基に、対話や交流を主体的に行っていくために、タブレットを活用している。



場面の設定を実際に見学旅行で訪れる動物園とし、単元のゴールを「一緒に行く1年生に動物園内の道案内をする」と設定することで、児童の興味・関心を高めています。

展開では、まずペアになり、話し手が道案内し、聞き手はメモを基にタブレットの地図上を指でたどります。次に、更に広い地図を使って道案内をし合う活動を相互に行い、対話や交流を深めます。

タブレットの利点を活かし、図形や線などを書き込んだり、書いた線を簡単に消去したりする活動を繰り返しながら、主体的に学んでいくことができます。

第3章

【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

習熟度別に分かれて学習する場の工夫とタブレットを活用した自主的な学びの充実に向けた取組

～山鹿市立鹿北中学校（社会科）～

授業の途中で、教師の説明により内容を再確認するグループと、自分たちで学習を進めるグループとに分かれて学習を進めている。タブレットを活用し、自主学習を進めることで、主体的で深い学びにつなげている。



一斉授業の後、習熟度別の2つのグループに分かれて学習を進めます。生徒自身がどちらかのグループを選択し、学習内容を再確認したい生徒は教室前方にて教師の説明および互いの意見交換（学び合い）を行います。理解できた生徒は教室後方にてタブレットを活用し、自主学習を行います。わからないところをそのままにせず質問し合ったり、自分のペースで発展的な学習に取り組んだりするなど、どちらのグループも主体的な学習が展開され、個別最適な学びにつなげています。

第3章

【「やってみよう」「きっと」「なるほど」が生まれる展開の工夫】実践例

水泳の授業において、自由な発想の中で競争する内容を決め、競うことの楽しみを味わう取組

～菊陽町立武蔵ヶ丘中学校（3年保健体育科）～

水泳の授業において、記録の向上や競争の楽しさ、喜びなどを味わうために自分自身や他者と「競争を楽しむ」時間を設定している。生徒の自由な発想をもとに競争する内容を決めて活動を行うことで、主体的に学習に取り組もうとする態度の育成にもつながっている。

競争したいこと 過去の自分と きって 勝つ!	競争した結果(記録や気持ち) 50mナドルでは、過去の自分と競いま し。足をつく回数は、変わらなかつ た。タイムは4秒縮まったのでうれ しい。25m平泳ぎでは、人と競争 し。タイムは0.5秒縮まったのでうれ しい。最後10mでついていかれて負けたので少し 悔しい。	授業の振り返り 今日は、目標の達成できてうれし い。タイムは4秒縮まった。前回、前 回から練習してきた良かった。な まめと思 した。人と競争して25m平泳ぎ では、惜しいところまでついていか れて。初めて水泳で悔しいと感じた ので、練習すればいいものでも悔しいん じゃないか。	平均70 1分35秒 4回
------------------------------	---	---	---------------------

競争したいこと 友達と20mと50m 競争したい。 前回の自分の 記録に勝ちたい。	競争した結果(記録や気持ち) 記録、人に25m70-10.1秒負け。 人に70-10.1秒→平泳ぎ50m1分 50mのタイム前回から3秒、前回 から1秒はやくなった。 「すごい」という気持ちで、1分5秒たい い。気持ちから大きく、負けた7分は 悔しかった。リベンジしたいと思った。
---	---

生徒から発案された内容（同じ泳力の他者との競争、違う泳力の他者との競争、以前の自分との競争、異なる泳法で競争、異なる距離〔得意な生徒の50mと苦手な生徒の25m〕で競争等）で競争を行うことで、「これならやれるかも」「これなら競争になるかも」と感じることができ、競い合うことの楽しみを味わうとともに、主体的な学習にもつながっています。

第3章

【「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫】実践例

ドットの数の求め方を、計算のきまりを使って1つの式に表し、図と式を関連付けて説明する取組

～南阿蘇村立白水小学校（4年算数科）～

グループ学習では自分が考えた求め方を示しながら説明している。全体での話し合いの場面では図で「考え方」のみを説明し、他の児童がそれからわかる「式」を考えるという話し合いの工夫を行っている。

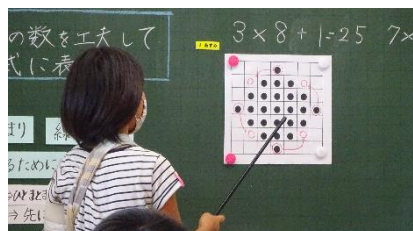


前時までに学習した計算のきまりを用い、ドットの数を1つの式に表して求める学習です。

グループでの話し合いでは、自分の考えを書きこんだ図を用いながら説明します。

また、全体での話し合いでは、図を用いて「考え方」のみを説明した後に、全体でその「考え方」を表す「式」を考えます。

全体発表の仕方を工夫することで、「考え方」と「式」とのつながりを深く考え、図と式とを関連付けながら説明する姿が見られるようになります。



他の児童が説明

